

「フジの花の季節 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

次の3年生の理科の時間には、校庭にフジの花を見に行こう・・・そう思っていたら、子どものほうから先にアクションがあった。

C:「先生、チャレンジロード(アスレチック型遊具)の近くのヘチマ棚に、紫のきれいなのが咲いてるんだけど、なあに？」

「ヘチマ棚」というのが面白い。私はそれを授業の最初に紹介させて、校庭に出すことにした。今の時期の校庭は、アオギリの若葉、スマイレの花、アブラナ科の植物、ミカンの花など、観察対象にあふれている。観察カードを持って、子どもたちと出してみた。



私が少し遅れて行くと、藤棚の下には、もう何人も集まって観察が始まっていた。

C:「先生、これはヘチマの仲間ですか？」

C:「ちがうよ、ヘチマの花は黄色じゃん。」

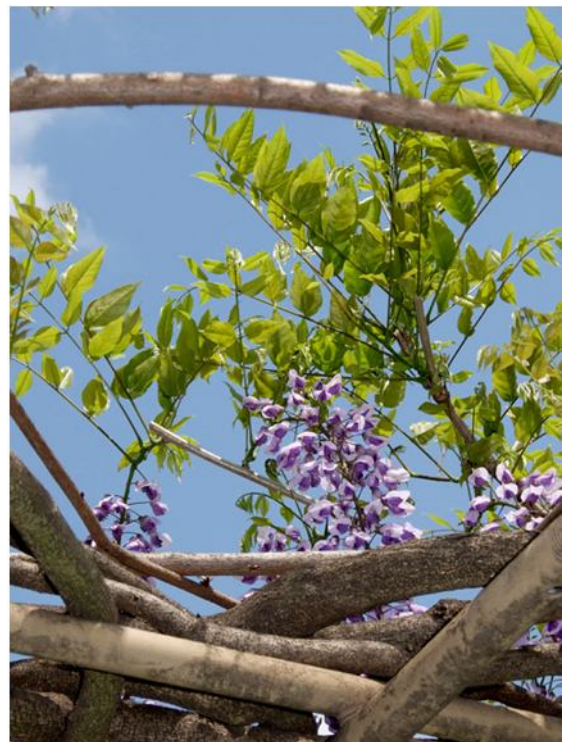
C:「ブドウの花でしょ？紫色だし、形も似てるし。」

T:「これはフジという植物ですよ。だから藤棚と言うのです。」

C:「へえー、じゃあ富士山に多いんですね？」



そんな会話をしながら、子どもたちは藤棚を見上げて一生懸命に観察をしている。



子どもの目線で写真をとってみた。同じ観察対象でも、教師の目線と子どもの目線では見え方がちがう。空がかぶさって、とても美しく見えた。(つづく)